

2016年総統選挙の見通し (4)

小笠原 欣幸

台湾の総統と立法委員のダブル選挙の投票日まであと 3 日となった。選挙戦は蔡英文・民進党が優勢を維持したまま結末を迎える。終盤戦で朱立倫の低迷が続き、宋楚瑜の支持が上がってきた。蔡英文・民進党が「どのような勝ち方」をするのか、間もなく答えが出る。投票日直前の選挙情勢を整理し「2016年総統選挙の見通し」の完結としたい。(2016.1.13)

1. 投票率

投票率が「上がれば〇〇党（候補）に有利、下がれば△△党（候補）に有利」と解説する人がいるが、細かく分けて論じないと意味がない。若者の投票率が上がれば民進党と第三勢力に有利になる。深藍の支持者が投票意欲を失い投票率が下がれば、当然民進党に有利になる。中間派選挙民の投票率が上がった場合は、国民党の潜在的支持者も出てくるが蔡英文、宋楚瑜に入れる人も出てくるので単純にはいかない。中間派選挙民の投票率が下がった場合は、緑陣営の支持者の方が投票意欲が相対的に高いので民進党に有利になる。

一方、地方の選挙区では、投票率が下がれば概して国民党候補に有利になる。というのは、地方派閥型候補は固定票を持っているので投票率が低ければそれに依拠して当選できるが、投票率が上がれば、増える票は概して地方派閥が掌握していない票なので、国民党候補に不利になる。実際の投票率がどうなるかについて、総統選挙の結果が早くから予見されていたので選挙民の熱気が高まらず投票率が前回より下がるという見方と、前回並みという見方と両方ある。

2. 続く国民党の災難

朱立倫・国民党の選挙情勢は一段と厳しくなった。朱立倫が正式に国民党の候補者となった 10 月 17 日以降、災難の連続であった。中台トップ会談開催が発表された時、「これで選挙情勢を逆転できる」「これで選挙はわからなくなった」と語った人がいたが、朱立倫のプラスにはならなかった。結果として馬習会談は朱立倫にとっては迷惑な話になった。会談の前後、馬英九にスポットライトがあたり、候補者の朱立倫自身がかすんでしまった。朱立倫の訪米も目立たなくなった。馬総統が会談の意義を力説したが、中台トップ会談はすぐに話題にならなくなった。国民党のある立法委員候補者は「馬習会談よりも（直後に発生した）パリ同時多発テロの方が有権者の関心が高かった」という象徴的な言葉を語った（2015 年 11 月 26 日、インタビュー）。

朱立倫が副総統候補に氏名した王如玄（54歳、女性）は、過去に軍人家族向け住宅の売買を名義借りして行ない利益を得ていたことが発覚し、王は連日釈明に追われた。これは国民党の支持基盤の中核をなす外省人軍人家族関係者の住居にかかわる問題であり、支持者の神経を逆なでした。そのため、国民党の立法委員候補の多くが王如玄との合同の選挙活動を避けるようになった。逆に、蔡英文が指名した副総統候補の陳建仁（64歳、男性）は好評を得て、民進党の立法委員候補が競って応援を要請し、陳建仁が応援に行くところでも歓迎を受けた。宋楚瑜が副総統候補に指名したのは国民党の党主席徐欣瑩（43歳、女性）で、これはサプライズであった。国民党は宗教団体をバックに持ち結成されたばかりの党で、どのくらいの集票効果があるのかは未知数であるが、活動要員を動員する力があり、宋楚瑜の支持率が低迷していた時に集会を盛り上げ命脈を維持するプラスの効果があった。

立法委員選挙の比例区名簿では、国民党は王金平を1位で処遇し、地方に基盤を持つ政治家を7位～11位に入れた名簿を発表したが、これが批判を呼んだ。朱立倫は党内基盤が固まらず、支持率が低いという非常に厳しい状態にあり、現実的に有力者を比例区名簿の安全圏に載せその支持者の票を確保せざるをえなかった。国民党寄りの台湾紙『聯合報』は社論で「この名簿を見ると、朱立倫は社会の期待に背き、政治の現実を誤って判断した」と手厳しく批判し（「朱立倫失去的現実感和未來感」『聯合報』2015.11.22）、同『中国時報』は朱立倫への期待が失望に変わったことを嘆き「2016年の役は戦う前からすでに潰れた」と書いた（「妥協名單 敗相已露？」『中國時報』2015.11.21）。

一方、民進党の名簿は各界・各種市民社会団体で実績のある人たちを集め、政治的指名は比例区1期を務め党内規則で再選指名が可能な5名と蘇嘉全のみで、地方政治家との利益交換という性質ではない。また、蔡英文は名簿登載を期待していた謝長廷、蘇貞昌、游錫堃ら党内長老を1人も入れなかった。これで基本的な評価を得た。前回2012年は蔡英文が今回の朱立倫のような失敗をしたのだが、蔡英文は見事に修正してきた。

11月27日には、食用油の安全性の問題で1年前に逮捕・起訴された企業の経営者に無罪判決が出た。これは2014年の台湾を揺るがせた大きな社会的事件で、渦中の頂新グループは中国市場で急成長を遂げた企業であったことから馬政権の対中政策への疑問にもつながり、同年末の地方選挙での国民党の大敗の一因となった事件である。あれだけ社会を震撼させた事件の一審で無罪判決が出たことで、再び馬政権の食の安全問題への対応に疑念が集まった。

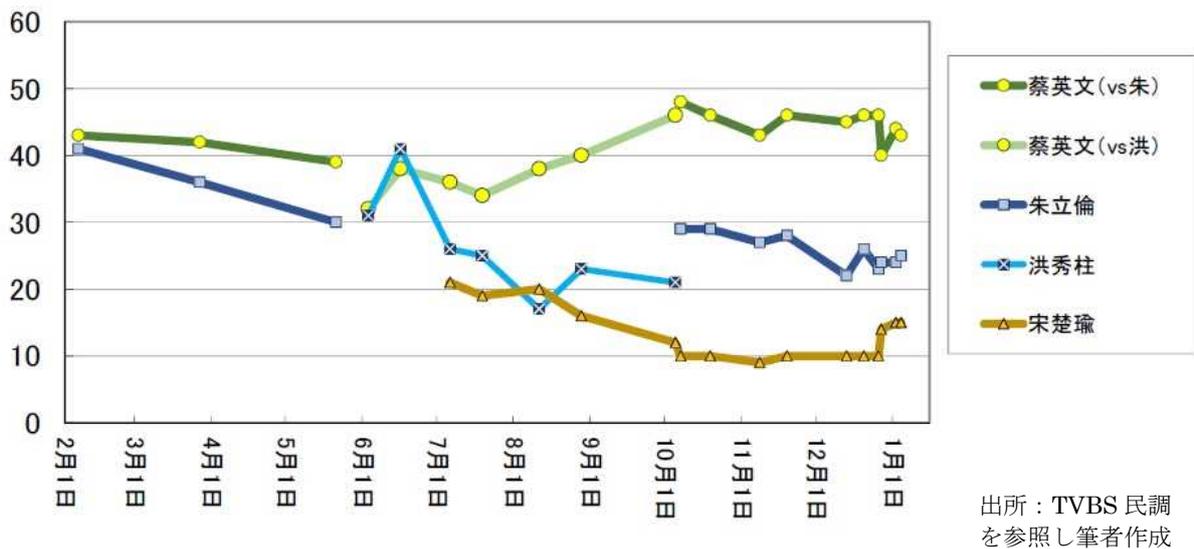
台湾社会においては馬英九政権の8年をマイナス遺産ととらえる見方が定着している。その逆風の中で勝ち抜くのは難しいと考えた朱立倫は、だから国民党の予備選挙に出馬しない決断をした。しかし自分が考えていた王金平への支持は中途半端で、想定外の洪秀柱が出てきて国民党は混乱に陥り、朱立倫が自分でその収拾にあたらなければならなくなった。大きな誤算であった。それでも朱立倫が出馬したのは、総統選挙の当選は難しくとも立法院の議席はとにかく守り、何としても過半数に近い結果を残さないと国民党は大変なことになると考えたからだ。だがそれも誤算に終わる可能性が高い。

3. 支持率の推移

台湾のテレビ局 TVBS の民調調査のデータを紹介したい。TVBS の局の姿勢は国民党寄りで、報道にもその色彩が見られるが、この局は民意調査センターを持ち、長年調査を手掛けてきた。選挙の支持率調査は頻度が高く毎回同じ質問の仕方をしているのでデータの安定性がある。調査の質問・回答もすべてホームページに公開している。過去の調査の選挙前の支持率と選挙結果とを対照させ得票率予測の数式も導き出せるので利用価値が高い。「国民党系の調査データをなぜ使うのか」と筆者はこれまで何度も質問・叱責を受けたが、海外の研究者が利用できる民意調査の中では信頼性は高い。

総統候補者の支持率の推移は図のとおりである。なお台湾では「公職人員選挙罷免法」により投票日の 10 日前から投票終了まで民意調査の発表が禁止されるので、調査は 1 月 4 日が最後である。その支持率に基づいて TVBS が予想した各候補の得票率は、蔡 53%、朱 31%、宋 16% である。筆者は、蔡 56%、朱 32%、宋 12% と予想している。終盤戦、特にテレビ討論会で存在感を見せた宋楚瑜が支持率をあげてきたという見方では同じだが、宋が二大政党の両方に不満の票をさらに吸収すると見るか、蔡英文の求心力が強いと見るかの違いである。いずれにせよ朱立倫の票は伸びないと見ていることは共通する。

《図 1》 TVBS 民意調査 各候補支持率の推移



4. 立法委員選挙の予想

総統選挙と同時にこなされる立法委員選挙も国民党は惨敗に向かっている。前回 2012 年は国民党 64 議席、民進党 40 議席、他に親民党 3 議席、台聯 3 議席、無党籍 3 議席であった（全 113 議席、過半数は 57 議席）。今回はそれがちょうど入れ替り民進党 64、国民党 40 というのが一つの目安になっている。台湾の専門家でも国民党はここまでは負けないと見て

いる人も多いが、筆者は総統選挙と立法委員選挙の「同日選挙効果」に注目し、民進党がさらに議席を伸ばすと予想している。筆者の予想議席数は、民進党 68、国民党 35、親民党 4、時代力量 4、無党籍 2 である。議席数より筆者が重視するのが各党の得票率予想である。

筆者が全 73 選挙区の各候補の得票を予想して集計した選挙区における各党得票率予想は表のようになる。選挙区での対決構造は、緑陣営 52.8% vs 藍陣営 44.3%となる。小選挙区制なので議席数は緑陣営が多数をとる。4 年前の前回選挙で筆者がこの方法で予想した選挙区の民進党、国民党の得票率は選挙結果との差が約 1 割であった。得票率の予想は大きな傾向を読み取ることが目的であり、誤差 2 割以内に収まれば成功と考えている。

《表 1》 選挙区の各党予想得票率

民進党	時代力量	緑系 無党籍	台聯	緑社聯	国民党	新党	親民党	国民党	その他
44.77%	2.15%	3.73%	0.87%	1.24%	43.59%	0.74%	1.23%	0.69%	0.98%

台湾の何人かの学者は、今回「分裂投票」が多く発生し、国民党は過半数は割り込むもののある程度の議席は守りそうだと考えている。「分裂投票」というのは総統選挙と立法委員選挙で異なる政党の候補者に票を投じることで、日本語で「ねじれ投票」といった方がわかりやすいかもしれない。総統選挙では蔡英文に入れるが選挙区ではこまめな活動をしてきた国民党の現職候補に入れるというのが「分裂投票」だ。一方、「同日選挙効果」というのは、総統選挙は蔡英文に入れるから選挙区も民進党の候補に入れる投票行動のことで、「ダブル選挙効果」というとわかりやすいかもしれない。ダブル選挙だと投票率が上がり、議員の選挙区サービスにあまり関心のない人も投票に出てくる。この効果が炸裂すれば、長年選挙区サービスをやってきた国民党のベテラン議員があちこちで落選する事態になる。

民進党と国民党の最大最小議席予想、および筆者の予想を表に整理した。国民党の過半数割れは確実だが、ある程度踏みとどまるのか、底が抜けた状態になるのかで、選挙後の展開が変わってくる。民進党が 60 議席の前半なのか後半まで伸ばすのか非常に重要だ。

投開票が無事に終了することを念願し、結果を待ちたい。

《表 2》 立法委員選挙 民進党と国民党の最大最小議席予想

	定数	民進党最大・国民党最小 の予想議席数				民進党最小・国民党最大の 予想議席数				小笠原予想			
		民進党	国民党	親民党	無党籍 その他	民進党	国民党	親民党	無党籍 その他	民進党	国民党	親民党	無党籍 その他
選挙区	73	52	16	1	4	45	27	0	1	51	20	1	1
原住民	6	1	4	0	1	1	4	0	1	1	4	0	1
比例区	34	17	11	3	3	14	13	3	4	16	11	3	4
計	113	70	31	4	8	60	44	3	6	68	35	4	6

作成：小笠原

「2016 年総統選挙の見通し」完 (2016.1.13)